

本紙コーナー「反射鏡」の性別表記を考える

性別聞く理由の説明を

性的少数者支援に取り組む筑波大の土井裕人助教(人社系)は、選択肢を設けず、自由回答をもらう方式が、回答者の負担が少ないと考える。「紙面で、



河野禎之助教



土井裕人助教

説明と同意が重要に

「反射鏡」が現在の形になったのは第315号(2014年7月発行)からだ。当時、編集長だった平嶋健人さん(平成27年度社会学類卒、現全国紙記者)によると、それまでは投書形式で、3人程度の学生の声を掲載していた。だが、投書が集まらず、匿名での街頭インタビュー形式にした。第315号では所属・学年のみの記載だったが、



平嶋健人記者

14年に現在の形に

第316号(同10月発行)から性別を入れた。平嶋さんは、「一人当たり、読者に読みやすさから性別を入れた。筑波大生の意見を拾い上げたいのは発言者の情報量を増やすためだ」という。



投書形式の第314号(右)と現在と同じ形式の第316号(9月24日、本紙編集室で) = 太田碧撮影 ※画像は一部加工しています

記事で性別表記は一般的

匿名者の性別記載は、新聞記事では一般的だ。記載はなくてはならないだろうか。性的少数者への取材を続けている毎日新聞の藤沢美由紀記者は「男性と女性では経験や置かれている立場が異なることがある。性別表記を一律になくすと、その差や問題点が見えなくなってしまう」と話す。

毎日新聞も、あるテーマに沿って街の声を集め、紹介してきた。

記者の目

筑波大学新聞の新人編集部にあって「反射鏡」取材は、記者活動の第一関門だ。見知らぬ人に声をかけるといふ取材のノウハウが身につくからだ。

私も1年生の時から何度も取材に加わった。最初はとても緊張し、優しそうな雰囲気の人を選んで声をかけたりしていた。それでも、思いもしないさまざまな話が聞けることから、次第に楽しくなった。取材相手に選んでもらうこと自体が、回答者の負担になるのではないかなど、意見が出た。拙速に決めていい問題ではないかと考え、性的少数者の当事者や報道関係者から取材することにした。

しかし、先輩記者から「男女の別を聞くだけでは、性的少数者は違和感を感じる」と言われ、性別を答えにくいと言っていた人がいた。そうにしていった人がいたことに思い至った。そこで、編集会議で「男性・女性・その他・無回答」と選択肢を増やし、質問紙で回答を求めると提案した。口頭では回答しにくいと思う性的少数者も多いと考えたからだ。



性の多様性 SOGI/LGBT+

性自認は自分の性をどのように認識しているか、どのような性のアイデンティティを自身の感覚として持っているかを示す概念。「性同一性」と呼ぶ場合もある。

毎日新聞社長の鈴木泰広・広報担当は「新聞報道では、社会の多様な声を掲載する必要があり、匿名で性別表記しないと、男女の割合が偏りすぎてしまうから」という。

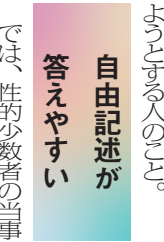
ジェンダー男性と回答された時は、話の文脈によって男性と書くことも、トランスジェンダー＝男性と書くこともあっていいのではないかと語る。

取材相手の性自認尊重したい

新聞社の記者への取材に性別を入れる、入れないの判断は難しい。理由から、従来通り「反射鏡」の匿名回答者の表記に性別を一律で入れることで編集部の意見が一致した。

また、性別を聞く際には、口頭より質問紙を用いた方が、性的少数者の負担が少ないと言った。共有し、議論した。

その結果、社会的な問題とジェンダーは切り離せないマバランスのとれた多様な属性の意見を載せていることを可視化できるテーマにすることに。



自由記述が答えやすい

自由記述が答えやすい。性的少数者の当事者たちは、性別の記載についてどう考えているのか。当事者と当事者に理解のない「無性」だと認識して

ある非当事者の学生たちが交流する筑波大の学生団体「サークルQ」の代表を務めたAさんは、戸籍や身体の性別は男性だ。しかし、自分自身Xジェンダー。男性でも女性でもない「無性」だと認識して

性別の掲載理由や掲載の仕方について十分な説明があり、自由に答えられるのであれば「無性」と回答でき、口頭ではなく質問紙で聞かれる方が答えやすいという。

質問紙が望ましい

「質問紙には『男性』『女性』『その他』『無回答』に加え、自由記述欄を設けてほしい。当事者がしつこく性自認を書くことができる」とAさんは話

Xジェンダー＝性自認が男性にも女性にも当てはまらないと認識している人、流動的だと感じている人、また性自認を明らかに

性別を入れる、入れないの判断は難しい。理由から、従来通り「反射鏡」の匿名回答者の表記に性別を一律で入れることで編集部の意見が一致した。

また、性別を聞く際には、口頭より質問紙を用いた方が、性的少数者の負担が少ないと言った。共有し、議論した。



オンラインで議論する本紙の編集部員



オンライン取材に応じる毎日新聞の藤沢記者(下段左)と鈴木広報担当(下段右)。上段は本紙記者

「質問紙には『男性』『女性』『その他』『無回答』に加え、自由記述欄を設けてほしい。当事者がしつこく性自認を書くことができる」とAさんは話

自認する性を回答可と明記を

「質問紙には『男性』『女性』『その他』『無回答』に加え、自由記述欄を設けてほしい。当事者がしつこく性自認を書くことができる」とAさんは話

Xジェンダー＝性自認が男性にも女性にも当てはまらないと認識している人、流動的だと感じている人、また性自認を明らかに

性別を入れる、入れないの判断は難しい。理由から、従来通り「反射鏡」の匿名回答者の表記に性別を一律で入れることで編集部の意見が一致した。

また、性別を聞く際には、口頭より質問紙を用いた方が、性的少数者の負担が少ないと言った。共有し、議論した。



三橋順子さん

ジェンダー史などの研究で、自身もトランスジェンダー女性の三橋順子さんも、選択肢に加えて自由記述欄があるという話。

三橋さんは「自由記述欄があれば、自分は『トランスウーマン』と書く。『その他』という言葉のニュアンスには疎外感がある。また、性自認を表明したくない人もいると思うので『無回答』も選べるようにすべきだ」と語る。

また、同サークルの部長でトランスジェンダー女性CCさんは「自分の場合、選択肢だと『女性』と回答するか、『その他』と回答するか迷ってしまう。自認する性を答えたいと明記してほしい。『未定』という選択肢も入れるのはどうか」と語る。

「質問紙には『男性』『女性』『その他』『無回答』に加え、自由記述欄を設けてほしい。当事者がしつこく性自認を書くことができる」とAさんは話

Xジェンダー＝性自認が男性にも女性にも当てはまらないと認識している人、流動的だと感じている人、また性自認を明らかに

性別を入れる、入れないの判断は難しい。理由から、従来通り「反射鏡」の匿名回答者の表記に性別を一律で入れることで編集部の意見が一致した。

また、性別を聞く際には、口頭より質問紙を用いた方が、性的少数者の負担が少ないと言った。共有し、議論した。

また、性別を聞く際には、口頭より質問紙を用いた方が、性的少数者の負担が少ないと言った。共有し、議論した。

だ。自由記述を導入したとしても、簡潔な表記が求められる反射鏡のようなコーナーで、どう記載すればいいのか悩ましい場合もある。広島LGBTsサークルLightの副部長でXジェンダーのBさんは「用語が統一されていない性別の名称や表現は無数にある。自由記述で書いてもらった性別を紙面でどう表記するか、取材対象者の意図に沿っているか擦り合わせる。自由記述の内容の表記は取材時に個別に相手とやり取りし、同意を得た上で記載する。」

記者の声



大和祐菜

五輪契機に政治に関心を 若者こそ声上げよう

五輪・パラのレガシー

【6・7面に「筑波大と五輪・パラ」特集】東京五輪・パラリンピックは多くの感動を与えてくれた。中でも、日本が銅メダルを獲得したパラリンピック・ゴールボール女子のプレーが目に焼き付いている。意地負けを頼りに、どうしてあんなに素晴らしい連係プレーができるのか。その役割を真っ先に担うべき人間の可能性を改めて知った。筑波大関係者の活躍も目覚ましく、在学生だけでも人がメダリストになった。

一方で、山口香教授(体育系)は、大会開催前から問題として、大会開催前から問題と

なっていた。東京五輪・パラリンピック組織委員会の会長だった森喜朗氏の女性蔑視発言。森氏の発言を聞き、先輩男性記者と一緒に取材に出向いた際の出来事を思い出した。先輩だけが相手の男性から名刺を渡された。相手に女性を軽く見る意図があったかどうかは分からな

がいた。若者の政治参加を促す団体「NO YOUTH NO JAPAN」の代表で慶應義塾大学の大学院生、能條桃子さん。森発言に抗議し、再発防止を求めるオンライン署名の発起人となり、10日余りで約16万筆を集めて組織委に提出した。

署名提出前に森氏は会長辞任など、社会に対し声を上げ続けてきた。「今回の大会をきっかけとして、多様な意見をきちんと発信できる社会になれば、それは日本にとって非常に大きな財産になる」と語る。

選挙も、自分の意見を社会に発信する一つの方法だ。自民党の総裁選を経て、今年10月には衆院議員の任期が満了になる。総選挙が目前に迫っている。

前回2017年の総選挙では20代の投票率は33・85%で各年代の中で最低だった。同年代の皆さん、投票することから始めてみませんか。(筑波大学新聞編集長・障害科学類3年)

筑波時評

芸術文化 コロナ禍でのオペラ公演 各国の位置づけに違いも

オペラ制作はフィンランドに例で鑑賞するのは、いわば目の前で行われる。ワインはブドウの品種、産地、収穫年、ブレンドなどに作り手の創意工夫が加わり、どんなコンディションでどんな料理と合わせるかで最終的な味わいが決まる。オペラの制作もスケジュールリングに始まり数年かけてプランを詰め、歌手・合唱・管弦楽・照明・大道具・字幕など数百人規模のスタッフ、コンマ何秒の精度で呼吸を合わせる。私たちが劇場、二や劇場、どこに干渉万別。飛

上がったのだが、その矢先にコロナ禍が襲った。多くの公演が涙を飲んでキャンセルされたが、長引くにつれ各国の芸術文化の位置づけ、捉え方の違いが見えてきた。

州や自治体の補助金が劇場の運営を支えるドイツでは雇用は守られていたが、ニューヨークやシドニー、ロンドンなど世

界中の名門歌劇場で大胆にリストラや賞金カットが行われた。9月は新シーズンの始まり。季節だが、現在、不安を抱える中、多くの劇場が再開し始めている。日本は劇場が完全に閉鎖した期間は短く、首都圏ではオペラ公演は昨夏から行われてい

た響きになる。オーケストラ・ピットは狭いので、大編成の演目には工夫が必要だ。

また、外国人歌手が来日できないが、日本人の出演が増えている。チャンスをつまみつかんだ歌手の熱演や若手の成長に接するにつれ、パッチャルな試みはいろいろあったが、今のところ実演に比肩するものはなさそうだ。

コロナはアーティストの社会的立場の問題もあぶり出した。ドイツでは首相や文化大臣がいち早く援助を表明したが、ニューヨークでは劇場と被雇用者の間に激しい労使対立が見られた。日本は社会や政治に積極的に訴える動きは全体に弱かったように感じる。一番大きな打撃を受けるのはフリーランスといふのはどの国・どの職業も同じで、実態の把握が難しい故に一層深刻である。

反射鏡

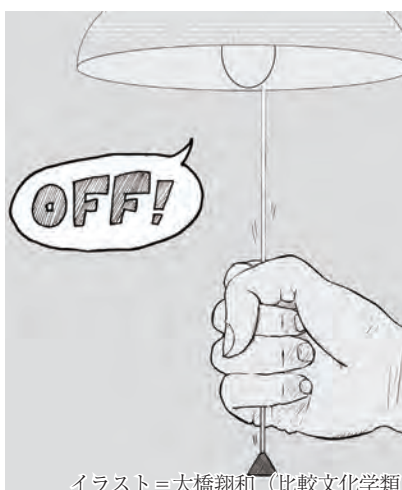
あなたの節電・節約術は?

外出自粛やオンライン授業などが続く中、「おうち時間」が増えた。それに伴って、光熱費の出費も増えたという人も多いのではないかと。筑波大生が普段行っている節電・節約の工夫についてオンライン会議システムなどを利用して聞いた。(坂田利通||人文科学類1年、細井真生||同2年、西村大祐||同4年、山田優芽||比較文化学類2年、車谷都美||社会学類2年)

【社2年・男性】 目分(お金の管理も)買入物を減らす際は、クレジットやQRコード決済など9種類の決済方法を使い分け、年間1〜2万円は無頓着だったが、近々車検で大きな出費があるので意識するようにした。料金は給与が振り込まれる口座と同一なので、入出金が

【社2年・女性】 小さい頃から節約するようになっていた。電気をこまめに消す習慣が身についており、気づかないうちに電気の消費量が抑えられていることはあると思う。また、暑に強いので、夏は扇風機で過ごしており、35度を超えないとエアコンをつけず、苦痛なく結果的に節電できている。

【資源2年・女性】 食費を1日300円に抑えている。ウェブでスーパーのチラシなどを見て、その時々なるべく安いものを買い、肉は月2回ある安売りの時にまとめて買っている。その日安く購入した食材に合わせて料理を決めているので、食材に余分な出費をしないように。外出する時は弁当を作り、外食は控えている。



イラスト=大橋翔和(比較文化学類1年)

同じ語でもアクセントに世代差

体専

タイセン

4拍からなる漢語略語のアクセントは声最後まで下がらない「平板型」が一般的

芸専

ゲーセン

声を最初の拍の直後で下げて発音しており、4拍からなる漢語略語では特異的(高く発音する拍の上に線を引いた)

世代差を反映?

最近の筑波大生

近年使われるアクセント

【解説】

東京五輪・パラリンピックが終わり、季節は芸術の秋を迎えた。スポーツも芸術も筑波大にとってなじみ深い世界である。それぞれに専門学群があるからだ。筑波大生は体育専門学群・芸術専門学群を「体専・芸専」と呼ぶ。長い単語を縮めて使うのは言語の世界ではよくあることだ。短縮することで頻りに耐えやすくなる。仲間の言葉として性格も強ま

【体専】「タイセン」は「体専」の「タイ」が「セン」になり、目下どの年齢層まで広がっているのか、疑問と興味は尽きない。(那須須夫||人文科学系・准教授)



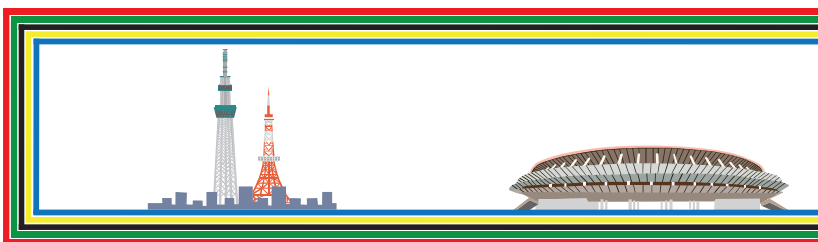
たいせん【体専】(名)体育専門学群の略。▽体育・スポーツ学、コーチング学、健康体力学の三つの領域から成る。

げいせん【芸専】(名)芸術専門学群の略。▽芸術・デザイン分野の専門教育成

【解説】

東京五輪・パラリンピックが終わり、季節は芸術の秋を迎えた。スポーツも芸術も筑波大にとってなじみ深い世界である。それぞれに専門学群があるからだ。筑波大生は体育専門学群・芸術専門学群を「体専・芸専」と呼ぶ。長い単語を縮めて使うのは言語の世界ではよくあることだ。短縮することで頻りに耐えやすくなる。仲間の言葉として性格も強ま

【体専】「タイセン」は「体専」の「タイ」が「セン」になり、目下どの年齢層まで広がっているのか、疑問と興味は尽きない。(那須須夫||人文科学系・准教授)



大会の持続可能性に課題残す



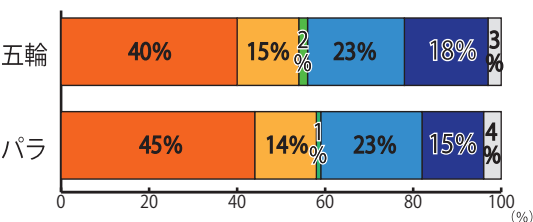
立花敏准教授

東京大会は2015年に採択された国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現を掲げた。五輪を巡っては、資源の浪費などの批判がかねて指摘され、IOCも1996年、五輪憲章に持続可能性の尊重を盛り込んでいた。

筑波大生 開催に賛否

筑波大生はコロナ禍での東京五輪・パラをどう見ていたのか。本紙は8月26〜31日にウェブ上で「東京五輪・パラリンピックに関するアンケート」を実施した。

大会開催についてどう思うか



筑波大ではスイスの五輪代表選手団が事前合宿を行っていた。そのサポート役となった学生がいた。この他にもボランティアに参加したり、テレビ観戦を決め込んだり、五輪・パラとさまざまな関わりをした学生の話を聞いた。

初めて外国選手を応援した五輪のスイス選手団をサポートした。陸上男子1万5000mに出場したジュリアン・ワンダー選手が大学構内を走る際に自転車と併走し、押しボタンスの信号を先回りして押すなど、スムーズに走れるようにした。本番のレースで21位に終わり、ジュリアン選手が悔しそうな表情をしていたことが印象に残っている。



舞台俳優 星善之さん

「続けることに、意味がある」。この言葉は文学入学生時代に演劇サークルに入るかどうか悩んでいた僕に、演劇の恩師がかけてくれた言葉です。僕は東日本大震災が起きた2011年に筑波大に入りました。歌や演奏が人々の心に寄り添う力を発揮している中、演劇がそのような力を発揮することほとんどなく、演劇を大学に入ってまで続けていく意味があるのかどうか分からなくなっていました。その時にその悩みを相談した恩師から「続けることに、意味がある。続けていけば、」

「続けることに、意味がある」。この言葉は文学入学生時代に演劇サークルに入るかどうか悩んでいた僕に、演劇の恩師がかけてくれた言葉です。僕は東日本大震災が起きた2011年に筑波大に入りました。歌や演奏が人々の心に寄り添う力を発揮している中、演劇がそのような力を発揮することほとんどなく、演劇を大学に入ってまで続けていく意味があるのかどうか分からなくなっていました。その時にその悩みを相談した恩師から「続けることに、意味がある。続けていけば、」

「続けることに、意味がある」。この言葉は文学入学生時代に演劇サークルに入るかどうか悩んでいた僕に、演劇の恩師がかけてくれた言葉です。僕は東日本大震災が起きた2011年に筑波大に入りました。歌や演奏が人々の心に寄り添う力を発揮している中、演劇がそのような力を発揮することほとんどなく、演劇を大学に入ってまで続けていく意味があるのかどうか分からなくなっていました。その時にその悩みを相談した恩師から「続けることに、意味がある。続けていけば、」

Hello! 先端研究



道喜将太郎助教

全世界で2500万人がうつ病を患っていると言われる。政府は2015年、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。

道喜将太郎助教(医学医療系)は「うつと診断されるキャリア」

客観情報でうつ状態を判定

AIが精神医学を支える未来へ

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」



(図は道喜助教提供)

信念があれば大丈夫

「うつ病を患っているとき、50人以上の労働者を使用する事業場にストレスチェックの実施を義務付けた。定期的に労働者一人一人のストレス状況を調べて結果を本人に通知すると共に、集団ごとに分析し、職場環境の改善に結び付けることを求めている。」

東京2020の舞台上で躍動 筑波大生2人がメダリストに



写真:西村尚己/アフロスポーツ

守備の要「センター」として堅実な守りを見せる高橋

高橋 初出場 で銅

準決勝敗戦バネにメダル獲得

ゴールボール
パラリンピックの女子ゴールボールが8月25日、9月3日に幕張メッセ(千葉県美浜区)で行われ、日本代表は銅メダルを獲得した。初出場の高橋利恵子(障害者P2年)は3試合に先発出場し、守備の要としてメダル獲得に貢献した。

ゴールボールは、目隠しをしたプレイヤーが鈴入りのボールを転がして相手のゴールを狙い、得点を競う。予選リーグ初戦は8月25日のトルコ戦。リオデジャネイロ大会金メダルの強豪に1-7で大敗した。高橋は「初出場で見事に勝つ」と言われ、メダル獲得に向け

「実力を発揮できなかった」と振り返る。だが、その後立て直し、2勝1分け1敗のグループ3位で決勝トーナメント進出を決めた。

同トーナメント初戦のイタリヤ戦に4-1で勝利し準決勝に進むと、再びトルコと対戦。初戦の敗戦の反省から、守備位置を下げ、ボールを止めやすくする作戦を取ったが、5-8で敗れた。

高橋は「金メダルを目指していたため、悔しい敗戦だったが、市川喬一監督に『メダリストがいかか、パラリンピアンがいかか』ともらいたい」と話した。(大和祐彦)

梶原 悔しさ残る銀



写真:望月秀太郎/アフロ

日本人女性初のメダルとなったが、パリ五輪での更なる活躍を誓った梶原

「観客の声援力に」

伊豆市)で行われた自転車競技女子オムニウムで、梶原悠未(体育P2年)が銀メダルを獲得した。五輪のメダル獲得は初めての。梶原は2020年の世界選手権(ドイツ・ベルリン)の王者として金メダルを目指してレースを行った。オムニウムは1日に4種目を行い、各種目で獲得した合計ポイントで争う。1種目の「スクラッチ」を2位でゴールし、38点を獲得する好調な滑り出しを見せると、2種目の「テンポ」では5位、3種目の「エリミネーション」では2位となり、それぞれ32点、38点を獲得した。この時点で合計108点となり、1位と2点差の2位につけた。

最終種目の「ポイントレース」は、250回転トラックを80周(20分)、10周ごとに通過順に応じたポイントが与えられる。梶原は残り9周時点で落車したものの、落ちていてレースに復帰し、2点を獲得。合計110点で1位と14点差の2位で競技を終えた。

梶原は「持っている力を出し切って銀メダルを獲得できたが、金メダルを目指していたので悔しい。(伊豆ペドロロームは有観客での開催で)観客の拍手がレース中も聞こえ、力になった。自転車を、これからも日本の女子がメダルを取り続ける競技にするために、パリ五輪では金メダルの獲得を目指し、自分自身が道を走ってきたい」と話した。(大和祐彦)

榎本 シンクロで5位

「互いに信頼しあえた」

水泳競技



板飛び込みで演技する榎本=本人提供

7月25日に東京アクアティクスセンター(東京都江東区)で行われた五輪の女子シンクロ板飛び込みで、榎本遼香(体育2年)とペーアを組み、5位入賞を果たした。同調性ある演技を続けたが、5本目で入水が乱れ、メダルは逃した。

女子板飛び込みにも出場し、準決勝まで進んだ。榎本は「もっとできたという悔しさも残るが、今後につながる大きな試合だった」と振り返る。

榎本と宮本が東京五輪に向け、ペアを組み練習を始めたのは2018年秋。

榎本は栃木県、宮本は大阪府が拠点のため、毎月の代表合宿でシンクロ演技の練習を重ねた。新型コロナの影響で、今年国内大会優勝や世界大会出場経験はあったが、「練習や大会を経て互いに信頼し合えるペアに成長していった」という。

「今まで国内大会優勝や、世界大会出場経験はあったが、練習や大会を経て互いに信頼し合えるペアに成長していった」という。

榎本は今後について、「オリンピックという肩書きを持つことになる。プレッシャーもあるが、それを乗り越えてもっと良い演技をしていきたい」と意気込むとともに、来年の5月に開かれる世界水泳を見据えている。「今回戦った選手も出場すると思うので、リベンジの意味も込め、しっかりと代表権を勝ち取って出場したい」と語った。(中山友香)

パラカヌー 一つ順位上げ7位 瀬立 2大会連続入賞

カヌー

9月2〜4日に海の森水上競技場(東京都江東区)で開かれたパラリンピック

のカヌー女子カヤックシングル200m(運動機能障害者K1)で瀬立モニカ(体育4年)が7位となり、リオ大会に続き連続入賞した。会場の江東区は瀬立が生まれ育った地元。目標のメダル獲得はならなかったが、決勝では準決勝のタイムを大幅に短縮するなど、リオからの5年間の成長を地元の人々にも印象付けた。

瀬立は高校1年時のけがで「体幹機能障害」を負った。パラカヌーを始めたのはその翌年の2014年。16年のリオ大会でいきなり8位入賞を果たし、大会後「東京大会での表彰台を目標に掲げていた。」

2組に分かれて戦い、各組1着だけが決勝進出する2日の予選で4着となり、4日の準決勝に回った。

準決勝も2組に分かれて行われ、各組3着以内で決勝進出となる。第1レース

筑波大と五輪の関わり 多くの選手輩出

筑波大が深く関わってきたから、誇らしい」と話した。(北川瑠璃)

筑波大は、前身の東京高等師範学校の時代から、五輪とは深い関わりがある。同校の校長を務めた嘉納治五郎は1909年、アジアでは初めて国際オリンピック委員会(IOC)の委員に就任した。スポーツ人類学を専門とする真田久特命教授は「日本の五輪ムーブメントは嘉納から始まった。多くの筑波大関係者が運営面でも大会を支えた。五輪ムーブメントに

計48人。五輪は27人(在学生5人、卒業・修了生22人)、パラは21人(在学生2人、卒業・修了生4人、附属学校などの在校生・卒業生15人)の他、尾藤賢教授(体育系)が東京五輪の日本選手団総監督を務めるなど、役員・コーチや医療従事者としても筑波大関係者は大会に貢献した。

筑波大は、前身の東京高等師範学校の時代から、五輪とは深い関わりがある。同校の校長を務めた嘉納治五郎は1909年、アジアでは初めて国際オリンピック委員会(IOC)の委員に就任した。スポーツ人類学を専門とする真田久特命教授は「日本の五輪ムーブメントは嘉納から始まった。多くの筑波大関係者が運営面でも大会を支えた。五輪ムーブメントに

弓道 インカレ 女子 25年ぶり優勝

第69回全日本学生弓道選手権(インカレ)の団体戦が8月11、12日に日本カインホール(名古屋市南区)で開催され、女子が25年ぶり4回目の優勝を果たした。男子は準優勝だった。

弓道

男子は5人、女子は3人がそれぞれ4射ずつを引き、合計的中数を争う。

8月12日に行われた女子団体は、2、3回戦で全員が4射全中を的中させる皆中を達成。帝京大を12中対8中、明治大を12中対7中以下するなど順調に勝ち上がった。準決勝の慶應義塾大戦では、高田実怜(体専3年)が皆中し、10中対9中で際どい勝利を収めた。決勝は四国大との対戦となった。高田と今井南(同1年)が皆中し、11中対8中で優勝を決めた。



全国選抜に引き続き、インカレを制した筑波大女子=弓道部提供

8月11日に行われた男子団体では、3回戦で慶應義塾の菊地凛(同4年)中(三番手)の坂本規成(資源4年)が皆中し、17中対16中で競り勝った。準決勝の明治大戦は16中対12中で快勝した。

決勝の相手は専修大。両者17中で並び、両チームの選手が1射ずつを引き、的中数の多い方が勝利となる「同中競射」にもつれ込んだ。1射目は同点で2射目に突入。筑波大は3中にとどまり、全員が的中させた専修大の勝利となった。主将の小坂麻露(体専3年)は、「大会を通し、誰かが外しても次の人が当てるのができていた。準優勝だったが、今後につなげる大会になった」と話した。

優勝した女子は、11月22、23日に伊勢神宮(三重県伊勢市)で開催される第45回全日本学生弓道女子主座決定戦への出場が決まった。第2セットも接戦となった。

インカレ 阿部 女子単と複でベスト4

「攻撃力を上げていきたい」

全日本学生テニス選手権(インカレ)が8月12、24日に四日市アニスセンター(三重県四日市市)で開催された。女子シングルスで阿部安美(体専3年)がベスト4入りした。また、ダブルスでは男子で田形諒平(同4年)と中村元(同1年)ペアが、女子では阿部と西尾萌々子(同1年)ペアがそれぞれベスト4に入った。

女子シングルの阿部は準決勝で今田穂(慶應義塾大)と対戦。第1セットはタイブレークまでもつれ込む接戦の末、6-7で落とされた。第2セットも接戦となったが、7-5で取り返した。第3セットは阿部が5-2とリードしたが、その後盛り返されて再びタイブレークへ。今田の勢いを止められず、6-7で奪われ決勝進出を逃した。



単複ベスト4の阿部=全日本学生テニス連盟提供

西尾ペアが準決勝で永田杏と対戦。第1セットは3-6で奪われたものの、第2セットは西尾がボレーを決めるなどポイントを重ね、6-2で奪い返した。10ポイント先取制の第3セットは接戦となったが、8-10となり、敗れた。

棒高跳古澤 初出場で見事優勝

女子 4年連続の総合優勝逃す

陸上

大学日本一を決める日本学生対校選手権(日本インカレ)が9月17、19日に熊谷スポーツ文化公園(埼玉県熊谷市)で行われた。初出場の古澤(生体専1年)は、初の優勝を飾った。しかし、



棒高跳で初優勝した古澤=陸上競技部提供

日本インカレ

対校戦で女子は総合6位、男子は同10位となり、女子は4年連続の総合優勝を逃した。筑波大は男女合計12種目12人が入賞した。

男子棒高跳では、同種目の高校記録を持つ古澤が5.40mの記録で優勝した。5月の関東インカレでは5.30mの3位だったものの、8月20日には筑波大新記録となる5.52mをマークし、調子を上げていた。

古澤は「今シーズン前半は腰のけがで満足いく結果が出せなかった。その中で、大学初タイトルを獲得でき、とてもうれしい。日本インカレでは4連覇を目指したい」と話した。

高良は2種目で表彰台

男子は3000m障害で松村匡悟(同3年)が3位入賞するなど、5種目6人が入賞を果たした。女子は、走幅跳の高良が6.33mで優勝。関東インカレでは3連覇中だが、日本インカレではおとしが2位、昨年は4位に終わっていた。今大会の優勝で、全日本中学校陸上競技選手権(2015年)、全国高等学校総合体育大会(16、18年)、日本選手権(17、18年)と、中学から全ての年代での日本一に輝いた。

高良は「初優勝でき、素直にうれしい。今回の優勝をきっかけに、初めて日本一になった中学3年生の頃なかつた部員も含め、団結して3日間を戦うことができた」と話した。(大和祐丞)

スポーツの顔

弓道

今年度は体育会弓道部女子の活躍が目覚ましい。

6月の全国大学選抜大会で団体初優勝し、8月の全日本学生選手権(インカレ)も25年ぶり4回目の団体優勝を果たした。主要メンバーとして、この二つの団体日本一に貢献した期待の1年生だ。

地元・前橋市の前橋商業高校に入学後に弓道を始めた。中学までバスケットをしていたが、目立つ実績は残せなかった。「どうせやるなら全国を目指したい」と、高良は、各種目の順位に応じて点数が与えられる対校戦で女子が6位、男子が10位となった。兵藤秋穂(同4年)は、「目標だった男女総合優勝は達成できなかったが、(無観客開催のため)現地に来られなかった部員も含め、団結して3日間を戦うことができた」と話した。(大和祐丞)



団体戦で全国大学選抜、インカレ制覇

今井 南 (体専1年)

は、全国高校総体の県代表を決める団体戦の予選と決勝で、最初に矢を射る大前に起用された。大きかけがほしい」と考

たせず、悔しかった。「もっこんな思いはしたくない。何か変わる動きができた。その結果、高校2年時の12月に開かれた全国高校弓道選抜大会の女子個人戦で準優勝を果たすことができた。高校3年時は、コロナ禍により高校総体などが中止され、大舞台で活躍することはかなわなかった。今井コーチの強い勧めもあり、筑波大で弓道を続ける道を選んだ。だが、大学入学直後はよく泣いた。先輩から指導されても、思うような動作ができなかった。その

「弓道でお世話になっている人に結果を残すことで恩返しをしたい」と謙虚な姿勢も忘れずに。今の目標は、11月に開催される全日本学生弓道女子主座決定戦での団体戦優勝だ。表現すれば、大学の主要3大会を1年で制覇する偉業となる。(山田優芽II比較化学類2年、写真も)

「負けたくない」

「負けたくない」という強い意志が、今井の成長を支えている。彼女は、毎日の練習で、自分自身を鍛え、チームのために戦う覚悟を決めている。そして、最終的に、全国大会で優勝し、自分の夢を叶えることを目指している。

課外活動の制限なお続く

窮地に陥る団体活動

【2面参照】筑波大学の課外活動団体の行動が制限された状態が1年半も続く。新型コロナウイルスの感染拡大のため。多くの団体が2年連続で夏合宿などの中止に追い込まれ、OB・OGとの交流や、集中練習で技術を向上させる機会を失った。今年8月から9月にかけての丸1カ月間は、原則として団体活動の全面自粛が要請され、活動はさらに制限された。窮地に陥る課外活動団体を取材した。

(小栗あおい)社会学類2年、寺尾優汰

合宿は親睦深める場

筑波大JAZZ愛好会は、9月下旬に長野県で予定していた4泊5日の夏合宿の中止を8月に決めた。合宿中止は2年連続となる。



2019年の夏、合宿で交流する「JAZZ愛好会」のメンバー。OB・OGも参加していた。

合宿場所は、スタジオやライブ会場を備えた宿泊施設。2班に分かれ、その中でバンドを組んで練習を重ね、最終日はその成果を発表するという形で披露するはずだった。

会長の大吉ひなたさん(人文3年)は「合宿は1年生からOB・OGまで幅広く参加し、交流を深めたり、技術の向上を図ったりできる貴重な機会。1年生にとっては初めてバンド練習をする場であり、今年

も多くのメンバーが参加を予定していた。中止は残念だと悔しさを隠さない。コロナ禍は通常の活動にも影響を及ぼす。毎週金曜日に文化系サークル館に集まって、セッションをしているが、人数制限や参加者の健康観察記録の徹底などの対策を取っている。以前はOB・OGもよく参加していたが、学外者との接触を避けるため、それも難しくなってしまったという。

技術を磨く機会失う

筑波大剣道同好会は例年、年3回の合宿を行っているが、昨春以降は全て中止している。今夏は、合宿の代わりに校内の武道場で丸1日、強化練習を行う計画を立てたが、大学からの

団体活動全面自粛要請を受けて、これも中止となった。主将の山本響生さん(人文3年)は「長期休みを利用して個人の技術を磨いたり、メンバー間の仲を深めたりする貴重な機会が失われた。残念」と語る。



木刀でスイングの練習をする筑波大剣道同好会のメンバー。合宿も中止となった。

動してき た。稽古中は全員が、通気性がよく、動いてもずれにくいスポーツ用マスクを着用するなどの対策を取っている。

こうした状況の中、メンバーの士気は低下傾向にある。山本さんによれば、コロナ禍前は毎回10人以上が稽古に集まっていたが、全面自粛前の数カ月は多くて6、7人で、1人しか参加しない日もあった。

山本さんは「2年生以下のメンバーは、活動自粛の影響で、そもそも顔を合わせる機会が少なかった。同好会の新入生は、就職決めの話し合いもできていない」と話し、今後の活動再開を望む声も口にした。

大学説明会 今年もオンライン

ライブ配信の活用拡大

コロナ禍のため、毎夏恒例の筑波大学説明会は今年もオンライン開催された。昨年は事前収録した動画の公開が主だったが、今年は在学生や教員と受験生らがリアルタイムで交流する「LIVE配信企画」を総合学域群と19学類・専門学群が8月21、22、28、29日の4日間にわたって実施し、全国の高校生約3000人が参加した。この他、各学類・専門学群の授業や研究、キャンパスライフなどを紹介するオンデマンド動画52本も公開された。

(及川千翔)人文学類2年、太田碧二第2類1年、北川瑠菜

入試課は7月26日にウェブページ「受験生のための筑波大学説明会」を開設し、8月6日までに各学類・専門学群が発信する37本の動画が出そろった。また、課外活動団体や学生宿舎などキャンパスライフや障害学生支援に関する紹介動画15本も公開した。

LIVE配信企画では、各学類・専門学群はそれぞれ個別相談会や学類説明会

8月29日に、学類生による学類紹介と教員による個別相談会をZoomで実施した。学類紹介には30人、個別相談には11人の高校生が参加した。



オンラインで学類の魅力や大学生活について高校生に説明する日本語・日本文化学類生。同学類提供

また、学類紹介の動画に加え、茶道の実習室や音響室など同学類生が主に使用する施設を紹介する動画「日施設ツアー」も公開した。元々は今年の1年生向けに制作したものだが「学内を移動する際の参考になった」との声が寄せられた。制作を担当した張山紗彩さん(日国3年)は「施設の良さが伝わるように、何をどのよう映すか、構図を工夫した。役に立ったと言ってもらえれば嬉しい」と話した。

同学類が相談会などに参加した高校生に実施したアンケートでは、「志望する学類が明確になった」「モチベーションが高くなった」「個別に話したかった」との感想が寄せられた。

同学類広報委員の鈴木伸隆准教授(人社系)は「学類生が直接企画に携わることや、リアルなキャンパスライフを伝えられた。双方向きのコミュニケーションを上手く使えば、コロナ禍でも高校生のニーズは把握できる。今回寄せられた意見を今後生かしていきたい」と話した。

生物学類

生物学類は、学類紹介、学類生によるキャンパスライフの紹介、研究紹介などの動画をウェブとYouTubeで公開した。

8月14・17日には教員による個別相談会をZoomで開催。8月21日にはポインツチャットツール「oivi」

生物学類長の野野賢太郎教授(生環系)は「oivi」など双方向型のコミュニケーションを活用したことは正解だった。対面で行いたい気持ちは強いが、地方の学生のためにオンラインも活用していきたい。留学生にも生物学類のことを

体芸エリアから

体育・芸術エリアの福利厚生棟にあったコンビニエンスストア「コンビニエンス」が7月31日に閉店した。コンビニエンスは同棟耐震改修後の2019年に開店したが、新型コロナウイルスの影響で、昨年4月から休業していた。第三学群食堂、平砂食堂に続くコロナ禍での撤退となる。コンビニエンスは19年11月に開

店し、同12月に約215万円、20年1月に169万円の売り上げを記録した。だが、感染拡大で客足が遠のき、休業直前の昨年3月には売り上げが約5万円にまで落ち込んだ。

コンビニ・食堂撤退

19年12月に開店した食堂も、感染拡大で打撃を受けて休業していた。今年7月に10食限定で弁当販売を一時再開したが、閉店に追い込まれた。

両店を運営していたフュードテックジャパン(本社・神戸市垂水区)は本紙の取材に対し「年間待ったが、コロナ禍の影響は変わらな

留学生の声

ベトナム ミン・グエン

(地球規模課題 学位プログラム)



「ずっと同じ場所に留まっていたくない。視野が狭まってしまう」

日本では学び始めて4年。中東の政治経済についての学びを深めるため、卒業後はドイツの大学院への進学を見据えている。

ベトナム・ホーチミン市出身。母は日本語教師。父も日本語の元通訳者で、中学生の頃には自らも日本語を学んだ。

新たな場所で成長したい

高校卒業後に若狭学園(つくば市稲荷前)に1年間留学。寮での集団生活で「場の空気を読む力」が身についたと笑う。今年日本語能力試験で最も難しいN1にも合格した。だが、日本や母国ベトナムを含むアジアにこだわらない。

母国と日本での生活で「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

「アジアは皆、村社会のよう。暗黙のルールに従って暮らしている」と感じるようになった。

魅力的だったから。授業は全て英語。気候変動や食糧問題などの解決に取り組み人材育成を掲げ、1年時は国際基督教大(ICU)でリベラルアーツ科目群を履修するなど、分野横断的な幅広い学びができる。

ICUで印象に残ったのが欧州連合(EU)や東南アジア諸国連合(ASEAN)など国際機関に関する講義だ。国際的な視点を持ち、英字新聞にも寄稿する教員と話をする中で、国際政治に興味を湧かされた。

筑波大では、柏木健一教授(人社系)が担当する中東地域の講義に引かれた。「中東は、貿易を通じてアジアと欧州の文化が混じり合う場所として繁栄してきた。これからは、カリキュラムがらもさまざまな多様性を知ってみたい」と話した。

学びたい時に学びたい内容が学べるわけではない、と感じた。それでも時間を見つけては、中東についての本を読んだり、インターネット上で無料公開されている米国の大学の映像授業を視聴したりする中で、幅広い

知ってみたい。動画には英語字幕をつけるなどの工夫を進めたい」と話した。

知ってみたい。動画には英語字幕をつけるなどの工夫を進めたい」と話した。

知識を蓄えようと努めてきた。

将来はACLEDに所属し、中東に関する情報を収集、提供することで地域の役に立ちたいという。現場の状況を適切に反映した政策を作るには、国家やイデオロギーにとらわれない、正確な情報の分析が必要だと考えるからだ。

ドイツ留学を希望するのは、欧州の中でも影響力が強い国で、中東との関わりも深いから。移民との交流にも期待できる。社会に貢献するためにはどうすればよいかを模索するつもりだ。(島崎翔)医学類4年、写真(本人提供)

ACLEDはアフリカ・中東を中心に、紛争や衝突の発生場所やその詳細情報を記録・公開している国際NPO。

ACLEDはアフリカ・中東を中心に、紛争や衝突の発生場所やその詳細情報を記録・公開している国際NPO。

ACLEDはアフリカ・中東を中心に、紛争や衝突の発生場所やその詳細情報を記録・公開している国際NPO。

海外留学部分的に再開

依然として渡航難しく

筑波大は7月から、1年間の交換留学プログラムであるなどの条件付きで学生の海外留学を認めた。学生の所属組織からの申請を審査し、国際担当副学長が個別に判断する。ただし、コロナ禍で海外渡航が難しい状況に変わりはなく、留学の許可条件や留学が決まった学生の声を取材した。

文科省の通知受け

今回の変更は、文科省が6月に出した通知「本人学生の海外留学について(周知)」に基づき、

通知は、各大学が学生の安全確保に万全を期すことを前提に、大学間交流協定などに基づく1年間(実際

の派遣期間9カ月以上)の海外留学プログラムの再開を認めている。国内外でワクチン接種が進んでいることなどを踏まえたという。

留学にあたっての留意点として、▽渡航先の感染状況や感染防止策・感染した場合の現地の医療体制の確保▽帰国の防疫措置の把握

や、帰国ルートの確保▽保険加入の徹底―などを求めている。また、留学を希望する学生のワクチン接種についても、大学に対して、可能な範囲での配慮を要請している。

長期留学に限って再開を認めたとについて、文科省は▽短期間の往來人数が増える▽感染リスクも高まる可能性がある▽日本への入国制限が続いており、予定通り帰国できない場合がある▽現地に着いても隔離期間の影響で実際の学習期間が短くなる―などを考慮したとしている。

日本学生支援機構では通知に合わせ、留学期間1年間の長期留学に対する奨学金支給を再開した。

筑波大は、外務省が発出する「危険情報」と「感染

や、帰国ルートの確保▽保険加入の徹底―などを求めている。また、留学を希望する学生のワクチン接種についても、大学に対して、可能な範囲での配慮を要請している。

長期留学に限って再開を認めたとについて、文科省は▽短期間の往來人数が増える▽感染リスクも高まる可能性がある▽日本への入国制限が続いており、予定通り帰国できない場合がある▽現地に着いても隔離期間の影響で実際の学習期間が短くなる―などを考慮したとしている。

日本学生支援機構では通知に合わせ、留学期間1年間の長期留学に対する奨学金支給を再開した。

筑波大は、外務省が発出する「危険情報」と「感染

や、帰国ルートの確保▽保険加入の徹底―などを求めている。また、留学を希望する学生のワクチン接種についても、大学に対して、可能な範囲での配慮を要請している。

期間は9カ月で、発達時期の脳における葉酸の役割について研究する。

昨年9月から留学する予定だったが、コロナ禍で延期になった。今年もできないと考えていたが、文科省の通知発表を受け、8月末に大学から渡航許可が下りた。渡航までの約3週間で急いで準備をしたという。

池田さんは「コロナ禍で人との交流が制限されるため、現地のコミュニティにうまく入れるか不安がある。オンラインも活用し現地の学生と積極的に交流したい」と話した。

その際に、①教育上の観点からの基準(留学先へ直接赴いて修学しなければならぬ理由があること)②安全上の観点からの基準(現地の状況把握やフォロワー体制の確立など)の二つの基準を踏まえて判断する。

今回の措置を踏まえ、筑波大海外留学支援事業(ははだけー筑大生)の支援も再開された。

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

短期雇用の時給引き上げ 茨城県内 4年連続

筑波大は10月1日、短期雇用の時給を筑波キャンパスなど茨城県内では880円(20円増)、東京キャンパスなど東京都内では1050円(30円増)に引き上げた。同日、県と都の最低賃金が879円(前年度比28円増)と1041円(同)に改定されたことに対応した。筑波キャンパスでの短期雇用の時給引き上げは4年連続となる。

筑波大の短期雇用は1カ月以内の期間で採用する雇用形態。大学説明会やシンポジウムでの運営補助、教員の事務補助などが主な業務内容だ。勤務場所は両

キャンパスや附属病院などで、主に筑波大生が雇用されている。業務内容の違いから、ティーチング・アシスタント(TA)やリサーチ・アシスタント(RA)などは雇用形態が異なる。今回の引き上げは、時給が最低賃金を下回らないようにするため、最低賃金額の10円未満の端数を切り上げた額を時給とした。

筑波キャンパスの短期雇用の時給は昨年10月、県の最低賃金が851円に引き上げられたことを受け、860円に改定されていた。(西村大祐)

一人の高齢女性がこちらに顔を向けている。「戸惑い」と題された写真に写る女性の鼻は、変形していた。寂しそうな目が写っているのは、何が映っているのか。

8月16日から9月18日まで筑波大附属中央図書館で開いた写真展に出品した1枚だ。これまでは年2回、インドのハンセン病センターで支援活動をしてきたが、コロナ禍で難しくなり、新たに試みたのが写真展だった。

展示したのは渡航中の団員やインドの村人を映した写真8枚。現地へ到着、村人との出会い、初めて会うハンセン病患者(回復者)、戸惑いながらも話しかける様子―

インドはハンセン病の新規患者数が世界で最も多い。差別や偏見が根強く、適切な治療を受けられなかったり、職に就けなかったりして、物乞いで生計を立てる人も少なくない。ハンセン病回復

メンパーは現在、1年生4人、2年生12人、3

だが2年前の夏を最後に現地訪問ができておらず、2年生以下は一度もインドに行けたことがない。

その過程でOB・OGに話を聞くと、後遺症で顔や手足が変形した村人を見て初めは戸惑ったが、先輩たちが優しく交流する姿を見て、自

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

美をめぐる饗宴

五十嵐 利治 特命教授(芸術系) 監修 寺門 臨太郎 准教授(芸術系) 責任編集

贈の「石井コレクション」には有形の芸術標本に即した研究教育成果のショーケースとなる附属ミュージアムがある。筑波大にはそれがなく、芸術系では600点超のアート・コレクションを管理し、学内外での展示や研究会などに活用している。

本書は、コレクションの中核をなす個人所蔵家寄

者や家族が集まるコロナ禍を訪れた団員たちの感覚を追体験できるよう工夫した。

ハンセン病は、らい菌による慢性感染症。手足の知覚がまひしたり、変形したりすることがあるが、感染力は弱い。適切な治療で完治する。

同団体の現地支援では毎年度、夏と翌春にコロナに約2週間滞在し、雨漏りする家屋の修繕や井戸の新設、コロナ内外でのハンセン病意識調

査などを行ってきた。だが2年前の夏を最後に現地訪問ができておらず、2年生以下は一度もインドに行けたことがない。

その過程でOB・OGに話を聞くと、後遺症で顔や手足が変形した村人を見て初めは戸惑ったが、先輩たちが優しく交流する姿を見て、自

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

筑波大学 出版会

美をめぐる饗宴

五十嵐 利治 特命教授(芸術系) 監修 寺門 臨太郎 准教授(芸術系) 責任編集

贈の「石井コレクション」には有形の芸術標本に即した研究教育成果のショーケースとなる附属ミュージアムがある。筑波大にはそれがなく、芸術系では600点超のアート・コレクションを管理し、学内外での展示や研究会などに活用している。

本書は、コレクションの中核をなす個人所蔵家寄

者や家族が集まるコロナ禍を訪れた団員たちの感覚を追体験できるよう工夫した。

ハンセン病は、らい菌による慢性感染症。手足の知覚がまひしたり、変形したりすることがあるが、感染力は弱い。適切な治療で完治する。

同団体の現地支援では毎年度、夏と翌春にコロナに約2週間滞在し、雨漏りする家屋の修繕や井戸の新設、コロナ内外でのハンセン病意識調

査などを行ってきた。だが2年前の夏を最後に現地訪問ができておらず、2年生以下は一度もインドに行けたことがない。

その過程でOB・OGに話を聞くと、後遺症で顔や手足が変形した村人を見て初めは戸惑ったが、先輩たちが優しく交流する姿を見て、自

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

無償で本を受け渡し

筑波大附属中央図書館2階のエントランス脇に設置されている本棚「コミュニティブックシェルフ」の新しい管理者を、つくば3Eフォーラム学生委員会が募集している。

この本棚は、低炭素社会の構築を目指す同委員会が

2016年、学内の本のリユースを促進するために設置した。管理用ノートが置かれており、本を譲りたい人は持参した日付と署名を記入し、本棚に入れる。

寄せられた本を受け取りたい人は、同様に日付と署名をノートに記録した上で

持ち帰る。同委員会による本棚には主に学術書と小説が置かれ、年間約600冊が交換されている。

現在の管理者は與谷剛さん(国際4年)で、18年か

ら一人で務めてきた。週に約2回、中央図書館に通

て棚を整理し、ノートが適切に使われているかなどを確認している。「図書館の雰囲気を壊さないよう、本

以外のものが置かれていないか気を使ってきた」と言う。

だが、與谷さんは来年3

月に卒業予定で、また後任が見つからない。

與谷さんは「図書館内の中から未知の分野と偶然

の出会いが、この本棚の一番の魅力だ。一緒にその場を作りましょう」と、後継者が名乗りを上げることに期待を寄せている。

問い合わせはメール(3e@tsukuba.ac.jp)で随時更新される。

問い合わせはメール(3e@tsukuba.ac.jp)で随時更新される。

問い合わせはメール(3e@tsukuba.ac.jp)で随時更新される。

問い合わせはメール(3e@tsukuba.ac.jp)で随時更新される。

渡航申請が可能なプログラム

1年間(実際の派遣期間9カ月以上)の交換留学プログラム

海外大学で学位取得を目指す大学院生向けのプログラム

留学に関する情報は、スチューデントサポートセンターのウェブサイト

池田玲奈さん(生物4年)は、9月20日から英マンチェスター大に留学中だ。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

期間は10カ月で、住宅のデザインや設計図の書き方などを学ぶという。

文科省の通知発表前に留学先から入学許可を得ていたが、その時は渡航できなかったが、7月からは渡航の準備をした。感染の不安から渡航を見送った友人もいて、周囲に留学が決まったことをなかなか言い出せなかったという。

櫻井藍花里さん(国際3年)は、9月12日からフランスのパリ・ラ・ヴィレット建築大に留学している。

コロナ禍で紡ぐハンセン病支援

インドはハンセン病の新規患者数が世界で最も多い。差別や偏見が根強く、適切な治療を受けられなかったり、職に就けなかったりして、物乞いで生計を立てる人も少なくない。ハンセン病回復

メンパーは現在、1年生4人、2年生12人、3

だが2年前の夏を最後に現地訪問ができておらず、2年生以下は一度もインドに行けたことがない。

その過程でOB・OGに話を聞くと、後遺症で顔や手足が変形した村人を見て初めは戸惑ったが、先輩たちが優しく交流する姿を見て、自

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

再びインドに渡航する日を想いながら、日本での新たな挑戦は続く。(車谷郁美II社会学類2年)

Who's Who?

コミュニティナースを全国に

ふさやま 総山 萌 さん (看護4年)



コミュニティナースを看護学生に知ってもらおうと取り組む総山さん=本人提供

「コミュニティナースを知ってもらおう活動を今春から始めた。ナース(看護師)という職業で勤務している姿が思い浮かぶが、総山さんによれば一地域の中で人とつながり、元気を一緒に作ることを実践する人や行参(やんさん)のものを指す。カフェの経営者が常連さんなどとの交流会を開き、日常生活

の様子を聞いて、健康状態を気に遣う。これも「コミュニティナース」にあたる。

今年3月には、クラウドファンディングで300万円の活動資金を集め、全国約1000校以上の看護学校にこの実践の在り方を紹介している本の寄贈を始めた。9月には、その実践者と学生がつながるオンライン

イベントも開催した。「看護学生の第一選択は病院への就職だが、それ以外のキャリアもさまざまなにある。キャリアの選択肢を広げ、自らが実践したいケアを見つめ直すきっかけになれば、と考えた」と話す。

小学2年時に母を亡くし、父子家庭で育った。「父に心配をかけたまじと踏ん張る自分」を守ってくれたのが、保健室の養護教諭たちだった。特に高校生の時は心身の不調で教室に行けない日が続いたが、保健室や別室を活用しながら自分と向き合い続けた。

次第に自分も養護教諭になりたいと思うようになった。子供の心身の健康を守り、生きる力を高めるために、看護学も教育学も両方極めたい。そう考えて進学先に選んだのが、学内外での学びを後押しする仕組みを設けている筑波大看護学類だった。

入学後は保健室ボランティア

看護学生の選択肢を広げたい 目指すはまち中の養護教諭

矢田さんが提唱する「コミュニティナース」と、自分が思い描く「まちの中」の養護教諭の姿に共通点を感じ、「自分のキャリアを考える良い機会になると考えた」と振り返る。

インターンでは、主に「地域おせっかい会議」に携わった。地域住民が集まり、それぞれがやりたいことやおせっかいでき

ることを共有し、互いの元気を後押しし合う事業だ。まちがどんな人々で構成され、どんな情報が行き交っているのかが分かり、「周囲の人と関わりを持ち、社会に役割を持って参加していると感じることが心身の健康につながる」と実感した。

この経験を多くの看護学生たちと共有したいと、クラウドファンディングに挑戦した。9月のオンラインイベントには全国から100人近くが参加した。イベントを通じて存在を知ったコミュニティナースに会いに行くと学生もいた。「イベントをきっかけに自分のキャリアについて考え、実際に行動する学生がいることがうれしい」と総山さん。

卒業後はCNCに加わりながら、「まちの中の養護教諭の在り方も模索していくつもりだ。」(中山友香 生物学類2年)

「まちの中の養護教諭の在り方を模索していくつもりだ。」(中山友香 生物学類2年)

「まちの中の養護教諭の在り方を模索していくつもりだ。」(中山友香 生物学類2年)

「まちの中の養護教諭の在り方を模索していくつもりだ。」(中山友香 生物学類2年)

職域接種 1回目完了



大会館でワクチン接種前に問診を受ける筑波大生=代表撮影

1面へ

学内総合

五輪メダリストが表敬訪問



永田恭介学長(中央)に表敬訪問する梶原(左)と永瀬(右)(8月20日、本部棟で)=車谷郁実撮影

1面へ

学内総合

非接触で文字入力



つくばメディアアートフェスティバルの展示を体験する来場者(8月5日、つくば美術館で)=北川瑠菜撮影

5面へ

学芸

体芸エリア コンビニ・食堂閉店



業者によって閉店作業が行われている体芸エリアのコンビニ(7月30日、体芸エリアで)=北川瑠菜撮影

10面へ

学生生活

編集後記

茨城県独自の非常事態宣言が出されたことを受け、夏季休業期間中の課外活動が全面活動自粛になりました。この11面(本紙でも)新型コロナウイルス感染症拡大以降、取材や会議がオンライン化し、後輩部員とかなか対面でコミュニケーションが取れません。残り2カ月ほどで執行部も交代します。先輩から教わった記者としてのあり方を、後輩たちにきちんと伝えることができていたのか、悩む日々です。2014年に本紙で編集長を務めた平嶋健人さんを取材しました(編集長・大和祐菜 障害科学類3年)

編集・発行

筑波大学新聞編集委員会
委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会工学系
副委員長 関瑞穂(学生部長) 委員 逸村裕(図書館情報メディア系・教授) 図書館情報学系・清水論(体育系・教授) スポーツ社会学系・菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学

次号は

11月5日(金)

発行予定です

発行所 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版